

当院の放射線科に通院中の患者さまへ

当院では、「肺血栓塞栓症における Dual energy CT を用いた造影 CT 撮像時の至適画像撮像法の検討」という臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた肺血栓塞栓症を評価する目的の CT 画像について、撮像プロトコル別に画像アーチファクトの程度などを検討することで、CT の適切な撮像プロトコルを検証するものです。この研究の計画書や研究方法に関する資料は入手、閲覧が可能です。

【対象となる方】 2010 年 1 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日までに当院で肺血栓塞栓症と診断された方、もしくは疑われた方

【研究課題名】 肺血栓塞栓症における Dual energy CT を用いた造影 CT 撮像時の至適画像撮像法の検討

【研究責任者】 自治医科大学附属さいたま医療センター放射線科 真鍋 徳子

【目的】 放射線によって得られた情報をコンピュータによって再構築して人体の輪切りの画像を作成する Computed Tomography（コンピュータ断層撮影＝CT）が医療現場で用いられています。この技術の進歩は医療の分野での診断能力を大きく飛躍しました。しかし、従来の CT では放射線の被ばく量が増えることが問題でした。ところが、被ばく量を減らすと画像が不鮮明になり診断が不確かになります。そこで、このようなことを改善するために、Dual energy CT という電圧の異なる放射線の発生装置を用いて、被ばくを少なくして、かつ、より良い画像を得ようとする CT 撮像法が利用されています。しかし、この CT を用いて肺血栓塞栓症の評価のために造影剤を用いると、従来の造影 CT と同様に上大静脈における造影剤からのアーチファクトのために診断が不確かになることが問題でした。これを解決するため当院では、Dual energy CT における低エネルギーレベルの CT 画像でコントラスト分解能が向上して造影効果が増強する特徴を生かし、造影剤を通常の半分に減量するなど造影剤の投与方法を工夫してアーチファクトを減らす試みをしています。この研究では肺血栓塞栓症の診断のために CT 検査を受けた患者さんを対象として、CT の至適撮像プロトコルを検討します。

【研究資金・利益相反】 本研究は自治医科大学附属さいたま医療センター放射線科の講座研究費を用いて行い、本研究における利益相反はありません。

【利用するカルテ情報・資料】

年齢などの患者背景、血液検査、呼吸機能検査、右心カテーテル検査、心電図、心エコー、

CT 検査、肺血流シンチ

【研究期間】 倫理委員会承認後より 2022 年 3 月 31 日まで（予定）

【研究の参加等について】

ご自身の臨床データを本研究のために提供したくない場合は、遠慮なくお知らせ下さい。その場合は、患者さんの臨床データは研究対象から除外いたします。また、ご協力いただけない場合でも、患者さんの不利益になることは一切ありません。患者さんの臨床データを使用してほしくない場合、その他、本研究に関して質問などがありましたら、主治医または以下の研究責任者までお申し出下さい。

【個人情報の取り扱い】

お名前、住所などの個人を特定する情報につきましては厳重に管理を行い、学会や学術雑誌等で公表する際には、個人が特定できないような形で使用いたします。また、本研究に関わる記録・資料は研究終了後、直ちに試料・情報等を破棄・廃棄します。

【問合せ先】 本研究に関する質問、お問い合わせがある場合、または御自身の診療情報につき、開示または訂正のご希望がある場合には、下記までお問い合わせください。御自身の情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象としませんので、2022 年 3 月 31 日までの間に下記の連絡先までお申出ください。この場合診療など病院サービスにおいて患者の皆様の不利益が生じることはありません。

(1) 問い合わせ先

所属：.....自治医科大学附属さいたま医療センター放射線科.....

職名：.....教授..... 氏名：.....真鍋 徳子.....

電話番号：.....048-647-2111.....

(2) 苦情申出先

自治医科大学附属さいたま医療センター総務課（電話 048-648-5225）